

八女高生の新たな足跡

第68回入学式

4月9日(火) 厳粛な雰囲気の中、入学式が挙行されました。新入生は新しい制服に身を包み、やや緊張しながらも、式に臨む態度や表情に、意気込みを醸し出していました。



新入生代表
三宅安美さん(西中出身)



八女高応援団による
新入生激励

「自助と共助を学ぶ宿泊体験事業」 in 阿蘇

4月11日(木)～4月13日(土)に阿蘇での新入生全員での初めての宿泊体験事業です。研修を通して、規律を身につけ、友情や八女高生としての自覚を育みました。



英語教員指導力向上事業

本年度から福岡県教育委員会より指定を受け取り組んでいる事業です。春日高校、福岡魁誠高校とともに拠点校として、新学習指導要領にある「英語による英語の授業」の研究・実践を行っています。



クラスマッチ

7月10日(水) 久しぶりの晴天の中、夏季クラスマッチを行いました。どのクラスも優勝を目指して一丸となり、熱戦を繰り広げました。



ソフトボール(3年生)

<シリーズ OB紹介 (第7回)>

田中 健

(本名)田中研一

★プロフィール
俳優・ケーナ奏者
ドラマ「俺たちの旅シリーズ」はじめ、テレビ出演も多く、時代劇からミュージカルまで幅広い活躍をしている



昭和44年 高21回卒業
昭和47年 あおい健の芸名でコロムビアレコードからデビュー
昭和49年 現在の芸名に変更、俳優に転身「サンダカン八番娼館 望郷」「青春の門」でブルーリボン、エランドールそれぞれ新人賞受賞
昭和58年 南米旅行でアンデスの民族楽器ケーナと出会い5枚目のアルバムをリリース
ケーナ奏者として活躍
平成5年 「望郷」では最優秀主演男優賞など数々の映画賞に輝く
平成22年 グッドエイジャー賞受賞

私は俳優とケーナ奏者をやっています。芸能界に入ってから41年が経ちました。今思えば、芸能界へのきっかけは、家が裕福でなかったのが、進学を諦め、早くお金を稼ぐ道を考えていた気がします。その一番の早道が音楽だったようです。

私は、姉の影響もあり、八女高に入ったらブラスバンド部に入部すると決めていました。登校してすぐ部室、休憩時間も部室、授業を休んでも練習には必ず出席する、音楽漬けの毎日でした。担当はトランペット。早くソロで吹けるようにと、家に持って帰っては畑の中でよく練習していました。

音楽熱が昂じて、先輩の「ザ・シャイニーズ」というグループにベーシストとして参加し、高3のとき、ヤマハのコンテストで九州地区優勝。全国大会にも出場できました。このグループは、すでに久留米のダンスホールで活躍しており、私もその店に出場しなければならなくなりました。当然、校則では禁止されています。この時、生活指導の先生から許可をいただき、沢山の先生方にも本心に親身になって相談にのっていただき、そのおかげで音楽を続けることができました。卒業後、博多で演奏している時、スカウトされ芸能界に入ることになりました。

私の好きな言葉は『今日は、明日の準備。』
今までの経験上、しっかり準備ができていれば何も怖がることはありません。一日の中で何時間かリスク(緊張感)を持つことが大事な気がします。

入部 久子

聖マリア学院大学看護学部
(名誉教授)

★プロフィール

昭和30年 高7回卒業
昭和33年 国立筑紫病院附属看護学院卒
昭和38年 国立公衆衛生院卒
昭和47年 大分県立厚生学院保健助産学科卒
平成9年 カルガリ大学(カガ)看護学部家族看護ユニットエクスターンシップ修了
昭和33年 大阪赤十字病院(臨床看護師)
昭和40年 久留米大学医学部看護専門学校(教務主任)
平成10年 久留米大学医学部看護学科(教授)
平成14年 聖マリア学院短期大学(教授・学科長)
平成19年 聖マリア学院大学看護学部(教授・学部長)
平成24年 聖マリア学院大学看護学部(名誉教授)

(表彰)

福岡県知事表彰・毎日新聞社看護功労賞
日本看護協会会長表彰・厚生労働大臣表彰



八女高時代は、絵画部室で先輩、友人と共に毎日夕方までデッサンに励んだことが思い出されます。3年になると部室で気楽にお互いの進路についてよく話し合いました。色々な進路情報の中から、国立系の看護学校のあることを知り、友人の勧めもあり、看護師になることを決意しました。

看護学校では寮生活の中で、看護学、医学などの専門科目を学ぶと同時に人間の生活、人間関係のあり方などについても多くのことを学びました。看護学校卒業後は大阪赤十字病院で臨床看護に従事、その後は主に久留米大学医学部看護学科と聖マリア学院大学看護学部の設立、及び同大学の看護学部教授として、看護教育の基礎づくりと教育の向上・発展に取り組んできました。

私の専門分野は基礎看護学で大学では看護学原論、看護理論、看護管理・倫理、家族論を担当しています。看護は看護師のもつ知識、技術とともに看護師の人間性が大きく影響します。看護師は看護を必要とする人(患者、家族)の傍で24時間看護を提供します。すなわち、その人(患者、家族)との対人関係において成立し、その人と共にある存在です。看護師はこのような対人関係を通して、看護師としての姿勢、看護技術の習熟と同時に人間として成長できるものです。

若い高校生の皆さん今、自己の将来への夢を一度考えてみませんか。

部活動実績

祝 全国大会出場

◎剣道部
全国高等学校総合体育大会福岡県大会
男子個人 優勝
第60回全国高等学校剣道大会出場決定!
(8月 於 佐賀県)
楠 充功(3年 黒木中出身)



◎文芸部
福岡県高文祭散文部門最優秀賞
平成25年度全国高校総合文化祭出場決定!
(8月 於 長崎県)

城 拓樹
(2年 黒木中出身)



◎自然科学部生物班
全国中高生水フォーラム
～未来につなぐ水のリレー 2013
(7月 於 東京都)
小屋松 祐弥(2年 広川中出身)

◎第10回日本の次世代リーダー塾
福岡県代表
池田 理紘(2年 羽犬塚中出身)
鴻江 俊之(2年 見崎中出身)

祝 南部大会優勝

◎弓道部
福岡県高体連南部大会・九州大会予選
個人部門 優勝
徳永 有美(3年 三潴中出身)

◎放送部
福岡県高等学校芸術・文化連盟筑後支部
アナウンス部門 優勝
橋本 理沙(3年 見崎中出身)

八女高だより

平成25年度
第1号
<7月19日発行>
福岡県立八女高等学校
校長 大坪 秀美
編集 企画広報課
【本号の内容】
・祝入学
・阿蘇研修
・英語教員指導力向上事業
・クラスマッチ
・祝全国大会出場
・大運動会
・OB紹介・立志源泉録

平成25年度 大運動会 (平成25年6月10日 月曜)

動き始めた伝統

かいこう 邂逅 ～今、新しい光をこの地に～

今年から大運動会は3ブロックを編成し、新たな伝統が動き始めました。最初は今までと違うブロック編成に戸惑う人も多かったようですが、日を重ねる毎に全員逞しくなり歴代を凌ぐ勢いで成長する姿が見られました。そして、本番当日。生憎の雨で順延することになったものの、全校生徒はモチベーションを落とすことなく取り組み、感動の大運動会を創り上げることに成功しました。ここで、いかに八女高生の団結力が硬いものなのか再認識することができました。テーマ通り、新しい光がこの地に降り注ぎ、未来永劫光輝く伝統を築き上げることが出来ました。

この成功は、指導して下さった先生方のおかげであり、私達を温かく見守ってくれた地域の方々のおかげです。

本当に今までありがとうございました。

生徒実行委員長 赤尾 光彦(3年5組 南中出身)



立志源泉録 (りっしげんせんろく) シリーズ第4回

このコーナーでは10回シリーズで八女高出身の偉人にスポットを当て、お一人ずつ紹介します。タイトルの立志源泉録とは、本校百周年記念誌の表題よりとったものです。

松永 伍一 (高校1回卒)

昭和5年生まれ 三潯郡大莞村(現大木町)生まれ

昭和十六年、八女中学入学、二年生のとき、学徒動員で渡瀬の三井製作所で働く。戦後復学し、文芸部の仲間と同人雑誌『ユーカリ』を創刊。昭和二十三年、学制改革により新制八女高等学校三年に編入、伝記作家小島直紀(本校中学25回卒)に教わる。八女中学卒業後、地元の大莞(おおい)中学校や花宗(はなむね)中学校で代用教員。文学への志止み難く、昭和三十二年上京。あらゆる文学組織に属せず、詩作のほか美術、民族、宗教など幅広い分野で評論活動。ラジオドラマ、テレビ、ドキュメンタリー番組のレポーターや制作も。平成十六年詩論『日本農民詩史』(全五巻)で毎日出版文化賞特別賞。

『老いを光らせるために』『老いの品格』『フィレンツェからの手紙』『散歩学のすすめ』『花明かりの路』『光の誘惑』『底辺の美学』『天正の虹』など。平成二十年ご逝去。七七歳。

西日本読者文芸の詩の選者を「唯一のふるさととのつながりですから」と、強い決死で死の直前まで続けた。最後までふるさとを愛し続けた詩人の一生であった。



平成25年度上半期 八女高ポスター完成!



福岡県立八女高等学校

